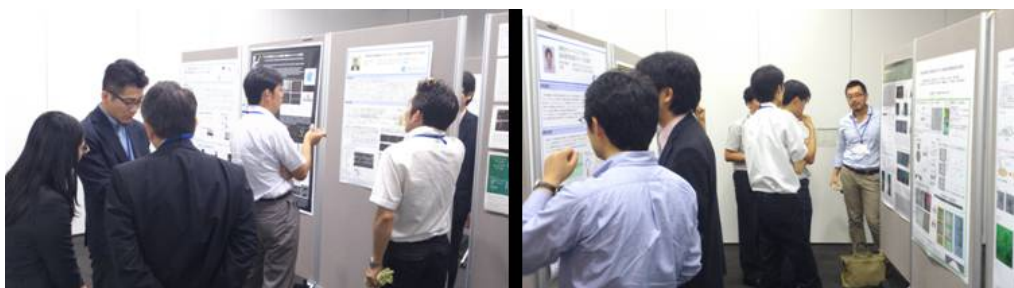


新学術領域研究「ナノメディシン分子科学」第一回 若手の会

2012年9月21、22日、名古屋大学 ES ホール

井上 祐貴

新学術領域研究「ナノメディシン分子科学」若手の会の第一回大会を、2012年9月22日に、名古屋大学 ES ホールで開催いたしました。今回の若手の会では、3名の先生方に招待講演を、そして18名の若手研究者にポスター発表を行っていただきました。まず、大阪府立大学の原田敦史先生から「多相系高分子高分子材料への機能創り込みによる DDS 設計」について、関西大学の岩崎泰彦先生から「骨指向性ポリリン酸エステルアイオノマー」について、広島大学の加藤功一先生から「幹細胞制御および分析のためのバイオマテリアル・バイオデバイス」についてご講演を頂きました。その後、若手の研究者の方々が、ご研究内容の簡単なショートプレゼンテーションを行い、続いてその詳しい研究内容について、ポスター発表形式にてディスカッションを行いました。招待講演は質疑応答も含めてそれぞれの先生方に30分間お話を頂く予定でしたが、先生方の貴重なご講演内容に、3時間ほどの活発な議論がかわされました。中でも、先生方の具体的な応用に向けたご研究内容やその見据える未来を、マテリアル工学の観点から学ぶことができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。ナノメディシン分子科学は、細胞環境における分子反応を定量的に理解・考察する学問領域であるため、マテリアル工学、理学、応用医学など、広範な分野を含みます。ポスター発表では、若手の先生方の、細胞内を理解しようとする強い意思に感銘を受けました。ポスター発表を通して、参加者それぞれが、様々な研究理念の一端を学び、大きな刺激を受けることができました。今回の会が、多くの共同研究が進行するきっかけになったと確信しています。また、若手の会の前日には大学内で簡単な夕食会を開催し、互いの交流を深めるとともに、名古屋大学の宇理須恒雄先生および馬場嘉信先生から若手研究者を叱咤激励するお言葉をいただくことができ、研究だけにとどまらない強い結びつきができたと思います。このようにナノメディシン分子科学の第一回若手の会を成功裏に終了させることができましたが、今後も若手の会を継続的にを行い、ナノメディシン分子科学をより大きな学問分野にしていくことが私たち若手研究者の使命であると強く感じました。



ポスター発表の様子